

2022 年度第 1 回理事会 議事録 2022.4.21

日時：2022 年 4 月 21 日（木）19：00～21：21

場所：オンライン開催のため各自自宅・職場

出席理事：神保武則(会長)、田中ゆかり(副会長)、金山桂(副会長)、吉本雅一(事務局長)、玖島弘規、佐々木秀一、奥原孝幸、佐藤隼、遠藤陵晃、野本義則、神田崇央、佐藤範明、木村修介、望月強併、澤口勇、西川航平、大郷和成(17 名)

欠席理事：戸塚香代子（1 名）

出席監事：錠内広之、野々垣睦美(2 名)

その他出席：池田公平(選挙管理委員会 委員長)

I. 会長より挨拶

4 月になりました。今年度初めの理事会となります。より円滑な県土会の運営を行うために今回から 2 部構成として組織改編についての意見交換を行っていきます。またトピックスとして代議員選挙結果についても池田選挙管理委員長より報告をいただきます。よろしくお願い致します。

II. 報告事項について(トピックス)

【トピックス】

1. 選挙管理委員会 池田選挙管理委員長より

(1)代議員選挙 推薦候補者数の報告

4 月 21 日現在で A・B ブロックともに定員数を満たす代議員候補者が集まり決定した。総計 77 名の代議員はこれをもって決定となった。第 9 回社員総会の場合でも報告し、県土会ニュースでも報告する。また今後は選挙活動を振り返り理事会へ報告する。

(2)会長より

選挙については無事に代議員が決まり安心しましたが、選挙広報の方法については今後も工夫検討していく。今後も会員に県土会活動に理解と興味関心を持っていただけるように運営していきたい。

III. 審議事項について

1. 後援名義使用について(事務局)

(1)日本ケアマネジメント学会 第 21 回研究大会への後援のお願い →承認

(2)神奈川県保険医協会 第 30 回在宅医療・介護セミナーについての後援名義使用・PR 協力 →承認

2. 新入会員の承認について(事務局) →承認

3. 部員・委員の承認について(事務局) →承認

4. 地域リハビリテーション部 一部事業計画の変更について →確認承認

2021 年度特別支援学級研修会が講師の予定等のため実施できなかった。2022 年度に 1 回分を追加して計 2 回実施する。予算は予算案通りで変更増額はしない。また今後開催出来なかった場合の繰越開催は今回のみとする。

5. 2021 年度の会計処理について(財務部、学術部、教育部、学会評議委員会) →確認承認

(1)学術部：ソフトウェア購入消費税の未計上があり 2022 年度に計上執行する

(2)教育部：謝金振り込みの振込手数料の未計上があり 2022 年度に計上執行する

(3)学会評議委員会：2021 年度予算不足のため事業費の一部(通信運搬費)を 2022 年度に計上執行する
<会長より>

今回は少額ではあったが今一度理事の責任として確認の徹底をお願いします。

※期末監査にて監事より確認承認

IV.報告事項について(各部署・理事)

【各部署】

1. 事務局

(1)第9回社員総会について

5月22日(日)9時半～11時半開催。基地局は県士会事務局とし三役、財務部・規約委員会理事が議場より出席する。その他役員、代議員はオンラインでの出席とする。

議案書については今月中に郵送予定。ゴールデンウィーク始めには届く予定。県士会ホームページにも公表する。

代議員から質問・意見を5月13日締め切りで募る。質問等が届き次第理事・役員に共有し、担当部署により回答を作成し事前に質問者には個別に回答する。また総会当日も質問内容について公表し回答を説明する。

2. 財務部・監事

(1)期末監査について

4月9日(土)実施。執行に関する不正や法令もしくは定款に対する違反する重大事項は認めなかった。

各部担当理事は管理監督に引き続き務めてほしい。またオンライン会議が増加しているが、事業費の計上ならびに会議議事録の適正な作成申請をお願いしたい。

各部署で書類等の修正事項があるため個別に連絡するので対応をいただきたい。

(2)2022年度会計説明会

会計処理に関する理解をより深め適正な手続きを行うために改めて開催する予定。各部署鋭意参加をお願いしたい。改めて開催日程等を案内する。

<意見交換>

会計処理についてはオンライン活動が続いている事も踏まえて改定が必要なのではないか。

→ご意見の通り実際の運営方法に寄り添った方法を検討する必要がある。以前よりの確かな方法を思案している。引き続き理事会とも相談しながら検討していきたい。

3. 学会評議委員会

(1) 第5回神奈川県臨床作業療法大会

ア)コンセプト

○地域と作業療法をつなぐ大会としたい

○地域共生社会の実現に向けた作業療法の理解を促進、活動を紹介

○県民や地域住民たちとの距離を縮める機会にする

イ)プログラム(企画) ⇒ 口述発表なし、すべての講演を県民参加型とする

『認知症とともに生きる社会』 →相模原市認知症疾患医療センター 大石智氏(医師)

『行政から作業療法士に期待すること』 →横浜市健康福祉局地域包括ケア推進課

『障害があってもなくても自分らしく生きること』

『精神領域における退院支援から地域支援』 →精神領域訪問リハ、病院作業療法士

『作業療法士による自動車運転支援』 →神奈川県警察本部 白岩淑子氏(作業療法士)

エ)日時・会場

日程：2022年12月11日（日） 10:00～16:30〔受付9:30〕

開催方法：オンライン開催（Zoomによる）

拠点：県内貸会議室、研修施設を検索中

オ)第5回神奈川県臨床作業療法大会ロゴマーク

40周年記念ロゴマークとの重複を防ぐため挿絵等としての活用とする。

カ)広報

県士会ニュースにて随時大会長あいさつやプログラム、参加方法などを広報する。

キ)抄録について

ウェブ開催ということもあり、PDFダウンロードによるペーパーレス化を検討中。多世代、多様性、関連団体報告を考慮して製本化（2500部）する必要性はある。

県士会ニュース12月号への同封が可能であれば、直前まで参加を促進することを目的に製本・会員向け発送も引き続き検討していく。

ケ)大会長より

地域共生社会を推進していくために当会として将来構造を会員や県民に知っていただく機会としていきたい。会員向けにはさらに参加しやすい企画を検討している。40周年記念事業としても意識しながら会員が能動的に参加できる仕組みを多角的に検討している。引き続き適宜理事会に進捗を報告する。

<意見交換>

○予定されているプログラムは1演題ずつ順に実施されるのか

→その通り。興味関心があるプログラムに参加していただけるように運営する。

○収支について

→参加人数は200名を想定し事業費は予算内で実施する計画。

4. 福利部

社員総会で表彰式を実施する予定としている。表彰者と第18回神奈川県作業療法学会松田学会長にも出席いただく予定。

6. 規約委員会

ホームページに諸規程(会員規程／会員権利及び特典内規、個人情報保護規程、個人情報取扱業務概要説明書、大規模災害時年会費免除規程、休会及び復会規程)を掲載した。

5. 学術部

学術誌をJ-stageに掲載するためにポリシーを規約委員会と協働して準備中。オンライン査読については5月中に査読委員会にて最終確認をして運用できる予定。

【理事】

1. 田中理事

(1)40周年記念プロジェクトチームより

ア)ロゴマークの説明と投票

3点応募があり概要を説明。理事役員による投票を行い案2が多数により決定。公表後より使用可能。総会でも公表する。

著作権については作成者に確認し県士会に譲渡することとなっている。文書での確認も行う。

その他ロゴマークとの酷似などの問題もないことを確認済み。

KAOT(Kanagawa Association of Occupational Therapists)は韓国作業療法士会との類似の懸念もあるが、ロゴマークのデザインとして使用し日本語も併記するため問題なし。

2. 大郷理事

(1) 渉外報告

教育領域への作業療法士参画に向けた意見交換会について出席報告。神奈川県は他県に比べて先駆的に教育領域への作業療法士の採用と活用がなされている。神奈川県はモデルケースとして認識されている。他県士会では子ども委員会など設置もされており、当会でもその必要性を感じた。

3. 遠藤理事・神保会長・吉本事務局長

(1) 横浜 YMCA 学院専門学校 2023 年度募集停止について

2023 年度から新規学生募集を停止し今後閉科する方針となった。非常に残念なお知らせではあるが県士会としても現在所属する学生が無事に巣立っていけるように支援を続けていきたい。昨今県内各養成校でも作業療法を目指す学生が減少しているという情報を共有している。当会としても小中高生への作業療法の PR を行っていく必要性を強く感じている。広報部の活動のみならず県士会全体で将来の作業療法士を育てていくことを重要な活動として位置付けていきたい。

4. 木村理事

Peatix 運用方法について今一度理事会全体に共有をお願いしたい。

→金山副会長より 改めて理事会に詳細資料を配信し共有周知する。また研修会事業を行っている部署については後日集合し確認する場を設けるので参集いただきたい。

V. 組織改編

1. 神保会長より

県士会組織図・体制の見直しについて概要と役員意見の集約、今後の意見交換についての進め方を説明。我々の任期を意識して、現理事体制任期内における組織改編の議論は以下の議論進行と優先事項に整理する。

- ①次体制に継承を意識した検討と議論（議論進行）
- ②組織改編の土台作り・枠組み作り（優先事項：コンセプト）
- ③県士会の方向性共有と決定（優先事項：重点課題・未来予想図）
- ④理事・役員の役割（優先事項：組織内部詳細決定）

2. 意見交換会の方法について

ブレイクアウトルームを使用し 4 グループに分かれて、①総論県士会組織体制について②総論タイムスケジュールについて③各論理事・役員の役割について④各論部署等の各論のテーマに分けて意見交換を進めていく。今回は初めてであるため①の総論について意見交換を行う。

3. 意見交換・共有

4 グループに分かれ意見交換を実施。司会進行、書記、発表者を決めて、全体会で各グループの内容を共有した。理事会で意見交換シートを共有し今後の意見交換にも活用する。

4. まとめ

(1) 神保会長

小グループに分かれて話し合いを行ったことで活発に意見交換ができたようであった。100%を目指すのではなく、フレキシブルに県士会運営の土台構築を進めみなさんと共有していきたいと思う。今後もメールやヒアリングの場も活用しながら活発に意見交換を継続していきたいと思う。引き続き宜しくお願い致します。

(2) 田中副会長

ざっくばらんに話し合える機会が少ないので今回はこの場を活用出来たようであり有意義であった。一人一人の意見を出し合う事を継続することで理事役員が纏まり組織改編に近づくのではないかと感じた。

また次回もよろしくお願い致します。

(3)金山副会長

みなさんと意見交換をする中で三役として意図して伝えたことが役員内に正確に共有出来ていないことに気が付かされた。理事役員内での話し合いを継続し理解を深めていく工程が、理事会と正会員の距離が近づくことになることを実感した。引き続き次回以降もよろしくお願い致します。

(4)吉本事務局長

初めての試みであり時間が短くなってしまったがみなさんの協力があり有意義な話し合いができたことに感謝します。今後も工夫しながら意見交換を継続していきたいので次回6月の理事会でもよろしくお願い致します。

VI.その他 連絡事項等

1. 議事録署名人について

吉本事務局長から指名があり決定する。神保会長、錠内監事、佐々木理事、野本理事。

2. 監事より

(1)錠内監事

お疲れさまでした。組織改編についてはその意味をどのように捉えるかも大切だと思います。今回は非常に良い話し合いだったと思いますが、ボトムアップでこのまま話し合いを進めるのか、たたき台を作りトップダウンにて進めるのか、今後の検討が必要と感じました。また意見交換の場に監事を含めるのかも検討の余地があるかと思っています。

内容に関しては、組織改編だけでなく運営方法にまで議論が及んでしまうと、県士会組織そのものの在り方まで話し合うことにあるのではないかと思いますので、一定の線引きも必要と感じました。引き続きよろしくお願い致します。

(2)野々垣監事

対面して話し合うことがなかなかできない中、小グループで個々人の具体的な意見を話し合うことが出来る機会だったと思いました。この話し合いをどのように進めていくか、メンバー構成について今後検討が必要だと思いました。

引き続き宜しくお願い致します。

議事録署名人	議長：	神保 武則	印
	理事：	佐々木 秀一	印
	理事：	野本 義則	印
	監事：	錠内 広之	印

次回理事会日程：2022年6月16日(木)19時より開催予定